

「流域計画・流域管理課題分野」(平成28年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
産官学民協働の水害に強い街づくりのためのリスクコミュニケーション手法の構築	山梨大学 鈴木 猛康	A
<p><研究概要></p> <p>甲府盆地は近年では大水害を経験していないものの、水害常襲地帯である。2027年リニア新幹線開業を目指して甲府新駅建設ならびに新駅周辺が開発されるのを機に、水害に強いまちづくりを推進することが望まれる。そこで本研究では、甲府盆地の大水害に対する広域避難計画策定を、BECAUSE モデルに基づいたリスクコミュニケーション手法を構築・適用し、産学官協働で地区住民、市町村、県、そして国土交通省の担うべき役割を明確にするとともに、必要とされるハード・ソフト対策について基本構想を提示する。</p>		
<p><事後評価指摘事項></p> <p>A評価のためなし</p>		

※評価基準

A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった。

B: 一定の研究成果があった。

C: 研究成果があったとは言い難い。